

公民館利用サークルの活性化にむけた
公民館の果たすべき役割について（答申）（案）

令和 5 年 3 月
香川公民館運営審議会

目次

1	はじめに	・・・・・・・・	1 ページ
2	現状と課題について	・・・・・・・・	2 ページ
3	提言	・・・・・・・・	4 ページ
4	むすび	・・・・・・・・	7 ページ
5	資料	・・・・・・・・	8 ページ

- * 諮問書
- * 香川公民館利用団体・サークル活動に係るアンケート調査結果
- * 香川公民館運営審議会委員名簿

1 はじめに

(1) 諮問内容

令和4年8月3日、香川公民館運営審議会は、香川公民館長から検討を要する事項として、「公民館利用サークルの活性化にむけた公民館の果たすべき役割について」の諮問があった。

(2) 諮問にむけて

開館して約33年が経過するなかで、これまでに長きにわたり多くの団体・サークル（以下「サークル」という。）が公民館を利用し活発な活動が行われてきており、このことが地域の社会教育の振興に大きく寄与してきた。

しかしながら、超高齢化社会に入るとともにライフスタイルの変化や、新型コロナウイルス感染症の影響等により活動の休止や解散、会員の退会等により長年活動してきたサークルは年々減少する傾向にあり、今後の公民館運営にとって大きな影響を及ぼすことが考えられる。

言うまでもなく、公民館を利用するサークルは、香川公民館を拠点として共通の趣味や目的を通じて、生きがいや健康、仲間づくりにつなげていくということからも、豊かな地域づくりになくてはならない存在である。

そのようなことから、各サークルが以前のような活力にあふれた活動を展開し、日頃の活動成果を地域に浸透させ、地域コミュニティの醸成に繋げていくために、香川公民館利用団体・サークル活動に係るアンケート調査（以下「アンケート」という。）の結果や各委員の意見も踏まえたうえで、今後の公民館の役割を明らかにしていきたい。

2 現状と課題について

香川公民館は、平成元年5月に市内5で5番目の公民館として誕生した。他館と比べて唯一エレベータが設置され、また図書館の分館も併設されていること等が特徴であるが、約33年もの間で周辺地域の状況もかなり大きな変化があった。

公民館周辺地域の主な変化として、開館以降、みずき地域の誕生や香川の住居表示の実施、また周辺地区の開発も進んだこと等から、一部地域（香川、甘沼、松風台）の人口について平成元年、令和4年を単純比較したところ、新たにみずきも加わったこともあり約1万5千人から約2万2千人と大きく増加した背景がある。

(1) 現状

公民館を利用する団体、サークルは、共通の学習目的をもつ地域の人たちが自主的な活動を行うグループであり、開館以降、公民館で活動するサークル数も徐々に増加し、最盛期（平成20～21年度頃）には130近いサークルが活動を行っていた。

しかしながら少子高齢化の急速な進展や社会情勢の変化等により、令和4年度にはその数は94であり約33年の経過とともに大きく減少してしまった。

このような状況のなか、現在活動しているサークルの現状や課題等を把握するため令和4年8月から9月にかけて、アンケートを実施し、その結果を以下のとおり内容別に整理した。

①活動内容、年数、年齢層等

現在活動しているサークル活動の分野は多岐にわたっている中で、特に体操やヨガ等の健康・スポーツ系や調理、パソコン等の家庭・日常、コーラス等音楽系で全体の58%を占めている。また、約半数が20年以上の活動歴があり、さらに10年以上も含めると73%が該当し、多くのサークルが長期にわたり公民館を利用している。

会の構成については、主に年齢層は60～70歳代が73%であり、80歳代も6サークルある等高齢化が顕著である。なお会員数は4～9人及び10～15人の構成で63%となっている。

②利用頻度、部屋の確保、講師

活動の頻度については、約半数のサークルが月2～3回のペースで活動しており、全体の9割以上が現状の活動頻度で十分と考えており、多くのサークルが概ね希望どおりの部屋を確保できている。講師については、約7割以上のサークルは講師が存在しており、そのメリットとして約8割が主に技術指導や適切なアドバイス等を挙げている。

③活動成果の発表や得られた成果

大きなイベントである公民館まつりをはじめ、公民館や市の主催事業、地域の施設での行事等様々な場面で日頃の成果を披露してきた実績がある。しかしながら、ここ数年、新型コロナウイルスの影響によりその機会が減少してしまったことに伴うモチベーション低下が懸念される。

なお、活動を通しての成果として、多くの意見として仲間との親睦や健康、体力向上、趣味の幅が広がりや生きがいや充実した生活をおくっている等を挙げている。

(2) 課題

サークルとして抱えている課題や施設への意見、要望等についてやはり現実問題として高齢化に起因した課題や施設利用に関係する改善点等アンケートにおいて各サークルから様々な意見をいただいたうえで、(1)の現状と同様に内容別に整理した。

①会員について

メンバーの高齢化や減少及び新たな参加がない又は少ないのほか指導者の高齢化など、アンケートでは高齢者中心の構成だが問題ないとの回答が多かった反面、現実問題として課題として認識していることもうかがえ、社会が抱える高齢化の進展がダイレクトにサークル活動にも影響を及ぼしていると考ええる。

②活動にあたり施設への要望等

活動したい日にできない、発表機会がない(少ない)といった部屋の確保に関する内容やコロナ禍により発表の場の喪失などがある。そのほか施設の備品老朽化によるものや予約システム、会所有の物品管理等様々な内容についての要望や改善等の様々な意見がある。

3 提言

全体的にアンケートの結果だけを見ると、会員数や年齢構成、利用頻度等について、概ねではあるが現状で満足しているサークルが多く、その活動によって様々な成果が得られていることが把握できた。サークル活動によるメリットである人と人とのつながりや居場所づくり、活動成果の還元等を通じて地域力の向上が期待できる。

今後のサークル活動の活性化に向けて、公民館としてどのような支援等があるのかを項目ごとにまとめてみた。

(1) サークルの育成、活動支援、利用促進について

①新規サークルのサポート

高齢化やコロナ禍等での活動自粛等により、特に長年活動してきたサークル数が減少している一方で、新たなサークルの発足もほぼ毎年数件ある。この新規サークルに対して公民館では利用者懇談会への加入促進を行う。この利用者懇談会への加入サークルは年々減少傾向であり、活動中で未加入のサークルも幾つか存在している。

活動サークルで組織された利用者懇談会への加入はあくまで任意ではあるが、会による自主的な活動や公民館との共催による活動等を通じて、より充実した公民館活動につながる期待や仲間の輪を広げる意味合いも備えていることから、公民館において十分な説明を十分行い、理解をいただいたなかで利用者懇談会に加入していただくよう取り組んでいく。

②サークル相談会の実施

公民館の事務局が窓口となり、例えば月1回など定期的に相談会を実施し、サークルが抱えている課題やそのような支援を求めているのか等を把握し、課題解決につなげていくための環境を作る。

③若い世代の利用促進

学生や社会人など若い世代をターゲットにして、この世代の興味、関心がどこにあるのか等ニーズを把握するとともに、学校や会社の休日にあたる土曜日や日曜日に活動できる新規サークルの立ち上げに関わるサポートを公民館として行う。

(2) 施設や設備及び運用面について

①設備等改善や機材等確保

開館して約33年間の経過し、建物や館内設備も徐々に老朽化してきており、そのことがサークルの活動に影響を及ぼしている部分もある。今後、利用者が安全・安心に施設を利用していただくために、古くなって使いづらい備品などの交換や修繕等について優先度も考慮しながら行っていく必要がある。

また、サークルが所有する機材等についても、事情により利用の度に持ち帰りが困難であるサークルもあることから、公民館とサークルにおいて十分な話し合いを行い双方納得できる保管方法を決めていく必要がある。

②運用面の充実

月1回、利用調整日としてサークルに集まっていただき、公民館や利用者懇談会からの連絡、報告事項や予約申込みが重複したサークル同志が話し合いを行い利用日を決定するなど他館では行っていない取り組みがある。一方で機会抽選による決定を望む声もあることから、今後、利用者の声を聞くなど理解いただいた形での運営を目指すべきであると考え。

(3) 活動成果還元機会の充実、拡大

①夏休み自由広場、大人のサークル体験のさらなる充実

夏休み期間、小中学生による公民館サークルの体験ができる「夏休み自由広場」や令和4年度より実施の「大人のサークル体験」は、地域の大人や子どもたちとの貴重な交流の場であり、また、サークルにとっても、自分たちの活動の楽しさや技術を教えることで自らも学び成長する効果が期待できる。コロナ禍のため「夏休み自由広場」が開催できない状況であるが、開催準備に伴うサークルの負担緩和も考慮しつつ、是非、今後も継続して実施していくことを期待する。

②地域での出前講座

近隣の小中学校や幼稚園、保育園、スーパー等に出向き、サークルが講師役となって出前講座の実施することで、自分たちの活動の成果を地域へ還元することが可能となること、また地域交流や今後の公民館の利用促進等が期待できる。

③同じ活動分野同士や他公民館で活動するサークルとの交流

おまつりやイベントにおける発表でのコラボレーションや他館が開催するイベントに出演することで利用者の交流促進や自分たちの技術向上に繋げていく。

(4) 地域における活動ネットワークの構築

①公民館と学校との連携

公民館と学校が設置する学校運営協議会が連携し、学校の授業などを活用してサークル活動を紹介するなど、子どもたちに対して学習の成果を提供し、地域の大人と子どものふれあい、交流を図る。

②地域の関係団体等とサークルとの連携

子どもたちを含めた若い世代を対象に、子どもについて教育や未就園児と保護を対象とした事業を実施するなど、参加者同士やサークルメンバーとの交流機会を創出する。

(5) 周知方法の工夫

①SNSの活用

地域の中で仲間をつくり、何かを始めたいと考えている人たちに、YouTube など SNS を積極的に活用して、サークルの立ち上げから活動までの具体的な説明を提供する。

②周辺施設の活用

周辺スーパーやコンビニ等地域で生活する人たちが多く利用する施設にサークルの会員募集に関するチラシを貼り積極的に PR する

4 むすび

5 資料

* 諮問書

令和4年8月3日

香川公民館運営審議会
会長 松尾 守人 様

茅ヶ崎市立香川公民館
館長 鈴木 朗

茅ヶ崎市立香川公民館運営審議会に対する諮問について

社会教育法第29条第2項の規定に基づき、下記の事項に理由を添えて諮問します。

1 検討を要する事項

公民館利用サークルの活性化にむけた公民館の果たすべき役割について

2 理由

平成元年5月の開館以降、香川公民館では数多くの団体・サークルが誕生し、これまで活発な活動が行われてきたことにより、地域の社会教育の振興に大きく貢献していただきました。公民館サークルは、公民館を拠点として共通の趣味や目的を通じて、生きがいや健康、仲間づくりにつなげていくということからも、豊かな地域づくりになくてはならない存在であると考えています。

開館して33年が経過する中で、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化等社会を取り巻く環境は大きく変化し、さらには新型コロナウイルス感染症の影響等によりサークル活動の休止や解散、会員の退会等により登録サークルが年々減少傾向にあることから、今後の公民館運営にとって大きな影響を及ぼすものではないかと懸念しているところ です。

つきまして、公民館サークルがより活力にあふれた活動を展開し、日頃の活動成果を地域に浸透させ、地域コミュニティの醸成に繋げていくために、公民館としてどのような役割を担うべきなのか検討する必要があります。

以上のことから、上記1の「検討を要する事項」について諮問しますので、よろしくご審議のうえ答申くださるようお願いいたします。

3 答申希望日 令和5年3月

資料

香川公民館利用団体・サークル活動アンケート調査結果

【アンケート期間 令和4年8月20日～9月21日 回答数 63件】

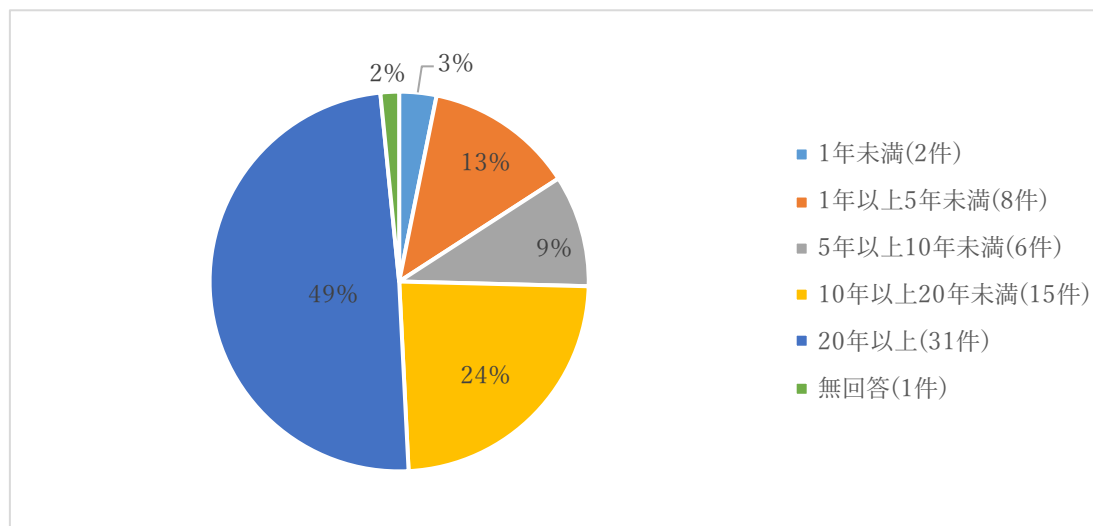
*割合について、項目によって複数回答や小数第1位を四捨五入していることにより合計100%になっていない場合があります。

問1 活動の内容

内容	件数	割合(%)	内容	件数	割合(%)
1 家庭・日常	12	19	10 謡・詩吟	1	2
2 市民・社会生活	3	5	11 手芸・工芸	0	0
3 育児・教育	3	5	12 書道・茶道・華道	2	3
4 福祉・人権	2	3	13 将棋・囲碁・麻雀	5	8
5 健康・スポーツ	14	22	14 美術・歴史	0	0
6 演劇・舞踊・ダンス	3	5	15 文学・読書	1	2
7 音楽	11	17	16 語学	0	0
8 絵画・写真	2	3	17 その他(団体、着付け)	2	3
9 俳句・短歌・川柳	1	2	*無回答	1	2

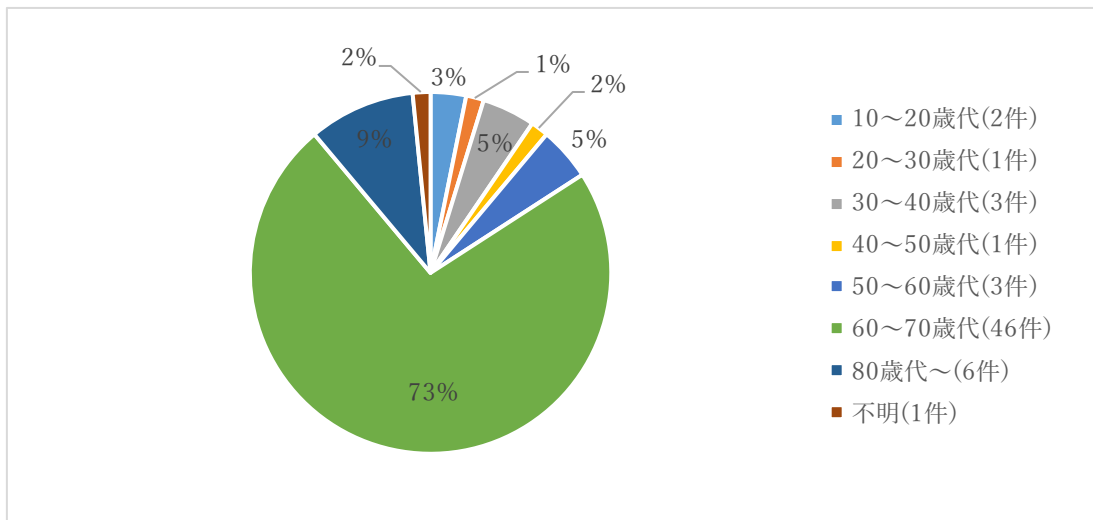
家庭・日常(調理、パソコン等)、健康・スポーツ、音楽の3部門で計58%と過半数以上を占めている。

問2 活動の年数



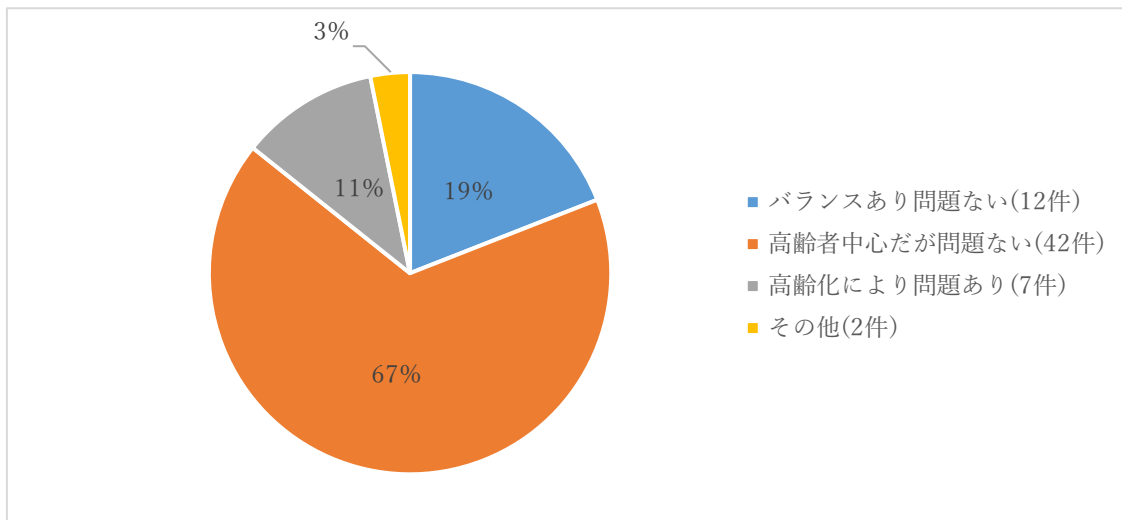
活動年数が20年以上に該当する団体・サークルが約半数あり、長期間にわたり活動している団体・サークルが多い。

問3 団体・サークルの年齢構成(最も多い年齢層)



幅広い年齢層ではあるが、全体の多くを占めているのは73%の60～70歳代である。

問4 年齢構成についての考え



(その他意見)・50～60代をむかえ会を活性化したい ・毎年替わる

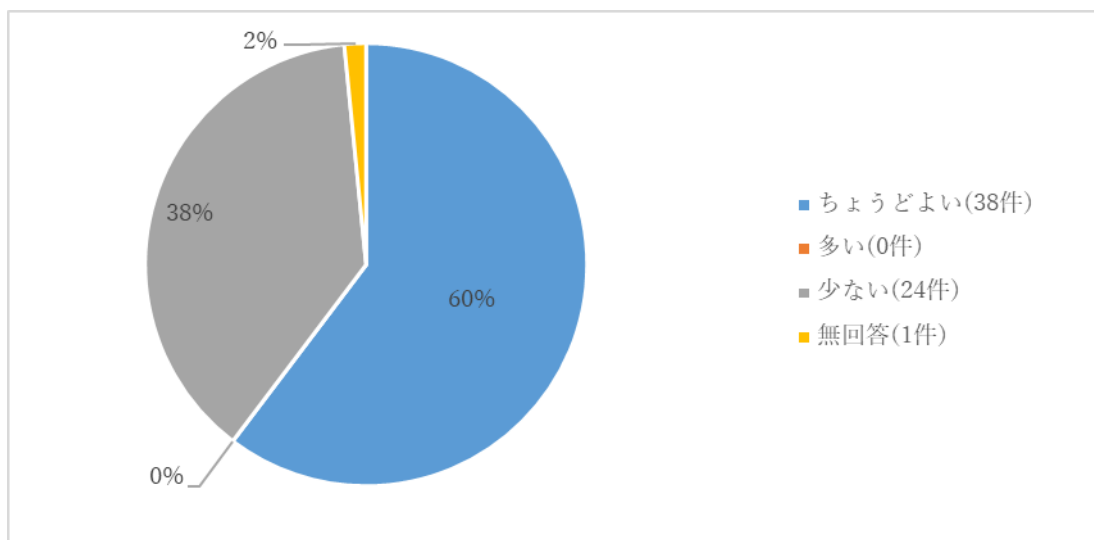
高齢者中心だが問題ないと考えている割合が最も多く、高齢化により問題ありは約1割である。

問5 現在の会員数

内容	件数	割合(%)	内容	件数	割合(%)
3人	3	5	31～35人	1	2
4～9人	26	41	36～40人	1	2
10～15人	14	22	41～45人	1	2
16～20人	5	8	46～50人	1	2
21～25人	3	5	51人以上	5	8
26～30人	1	2	無回答	2	3

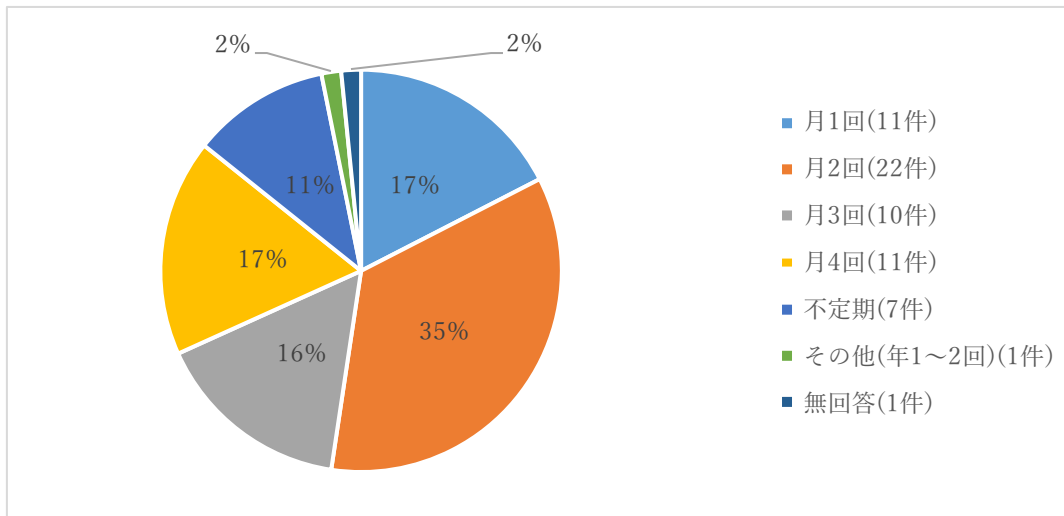
会員数が4～9人及び10～15人で構成する団体・サークルが全体の63%を占めている。

問6 会員数についての考え



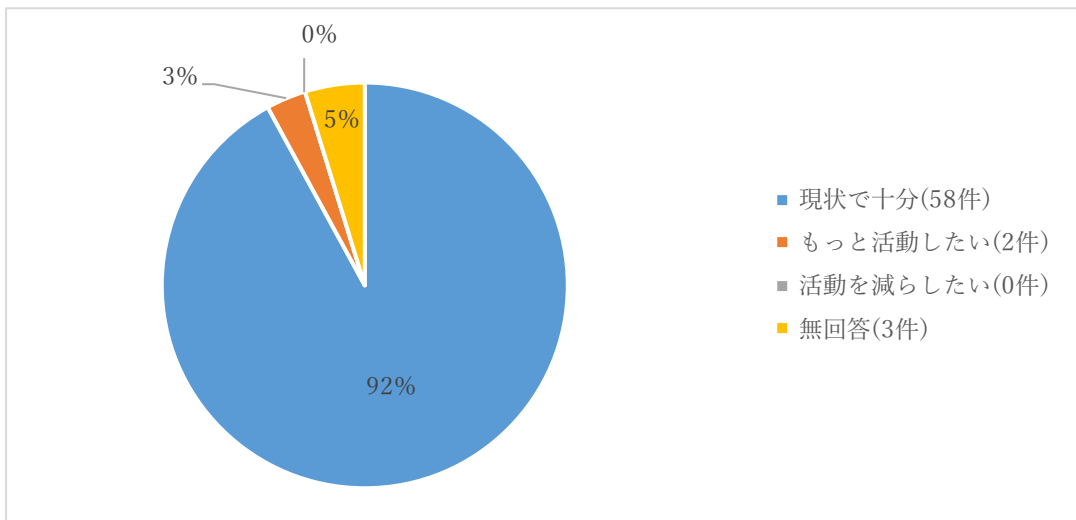
ちょうどよいと考える回答の割合が60%、また少ないとの回答が38%である。

問7 活動の利用頻度



月2回、3回の利用が全体の51%占めている。

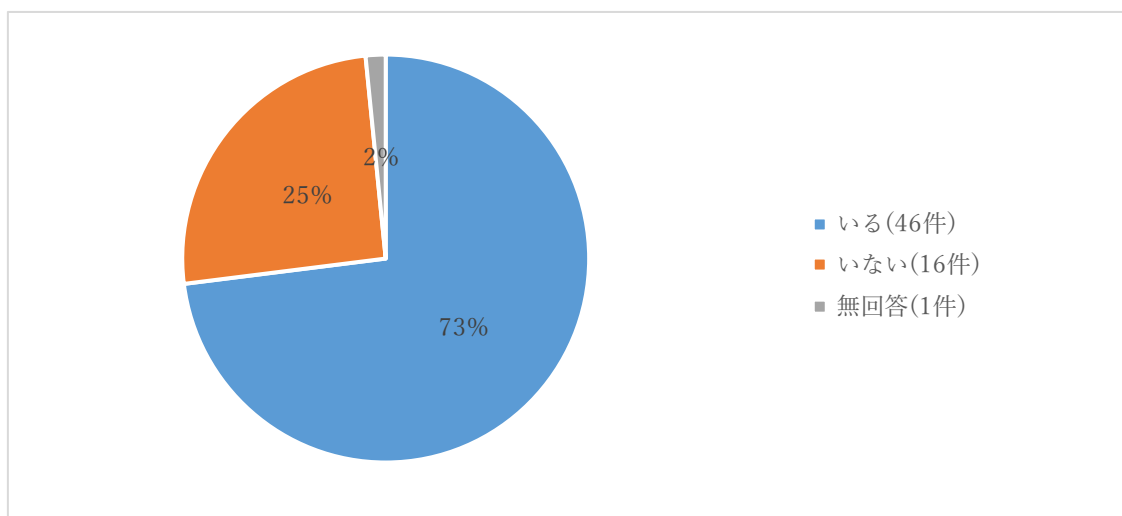
問8 望ましい活動の利用頻度



(もっと活動したいの意見) ・月2回→週3回希望 ・不定期→月1回希望

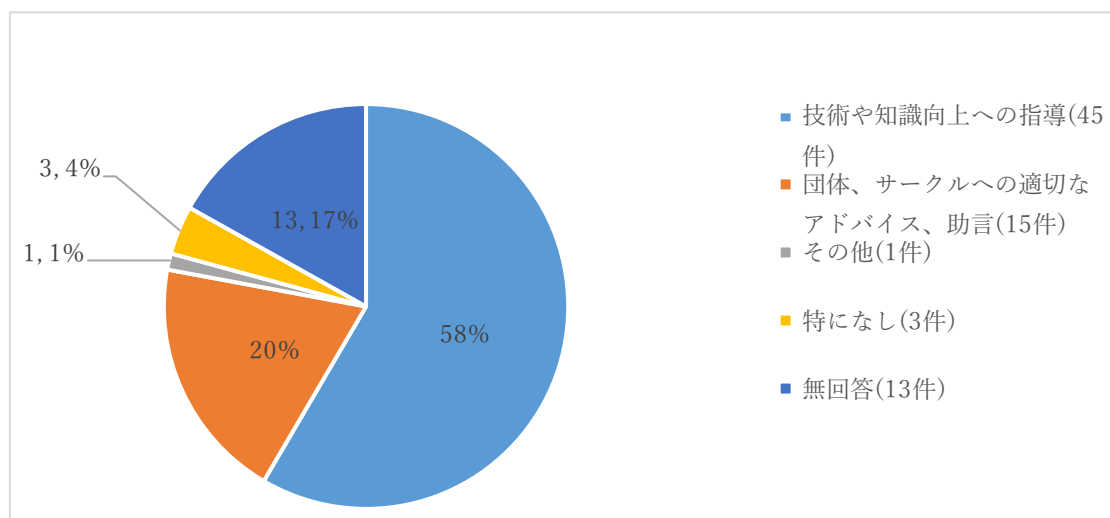
利用頻度は現状で十分と考えている団体・サークルが全体の92%と圧倒的に多い。

問9 指導者（講師等）はいますか？



指導者（講師等）がいる団体・サークルは7割以上。

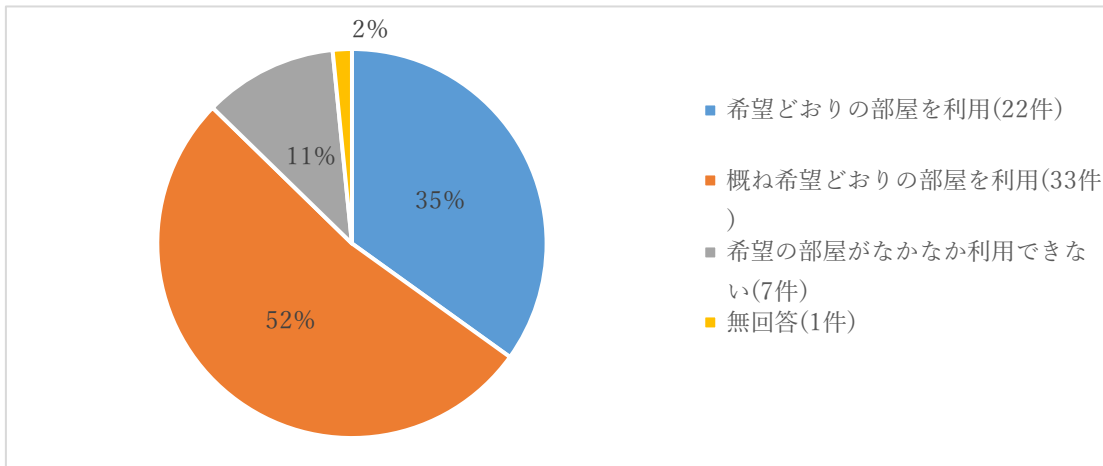
問10 指導者（講師等）がいることの良い点



（その他意見）・指導者が定期的にコンサートを開催

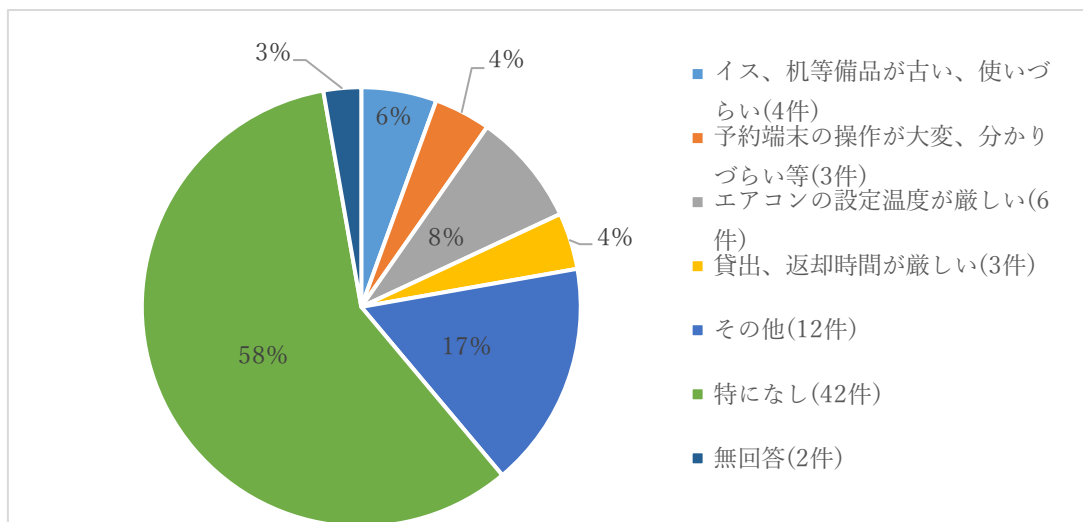
指導者がいるメリットとして、技術、知識向上等指導や団体、サークルへのアドバイスで約8割に近い回答がある。

問11 日頃、活動で利用する部屋の確保はどのような状況



大半が希望通りの部屋を確保できているが、約1割程度は希望する部屋が利用できていない。

問12 活動にあたっての施設への要望、課題など

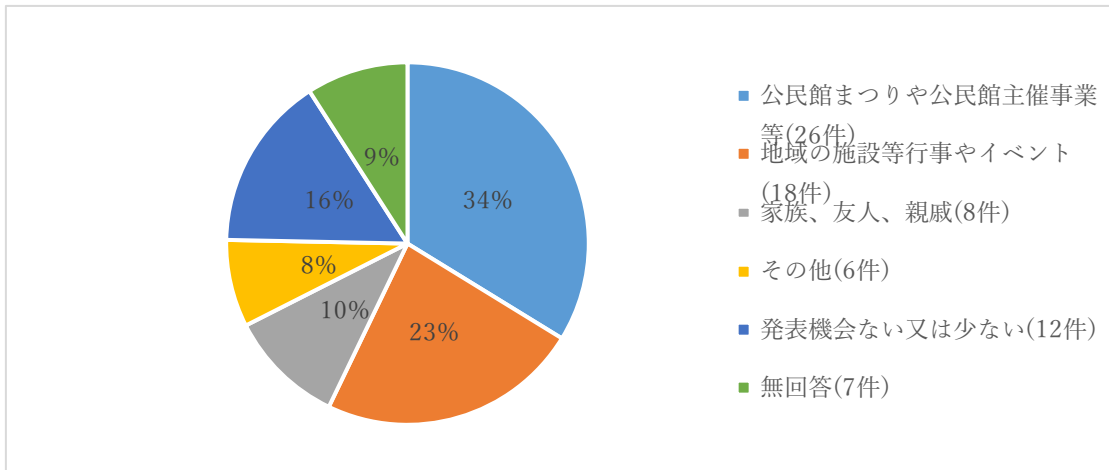


(その他意見)

- ・集会室ピアノが殆ど使えない
- ・コロナ対策で3時間利用したいが予約がとれない
- ・ガスコンロの火力が弱い
- ・和室の畳のささくれが服に着いて取れない
- ・和室のテーブルが重くて出し入れが大変
- ・調理室のオープンが使いづらいところある
- ・裏庭の雑草が伸びて子どもたちが遊べない
- ・調整日が平日だと仕事の調整が難しく参加しづらい
- ・集会室中小はイスを並べておいてほしい
- ・もう少し長い時間とれたらよい
- ・端末で直近の予約時間が見られない。

施設の備品関係や運用方法についての課題が挙げられる。

問13 活動成果発表の機会



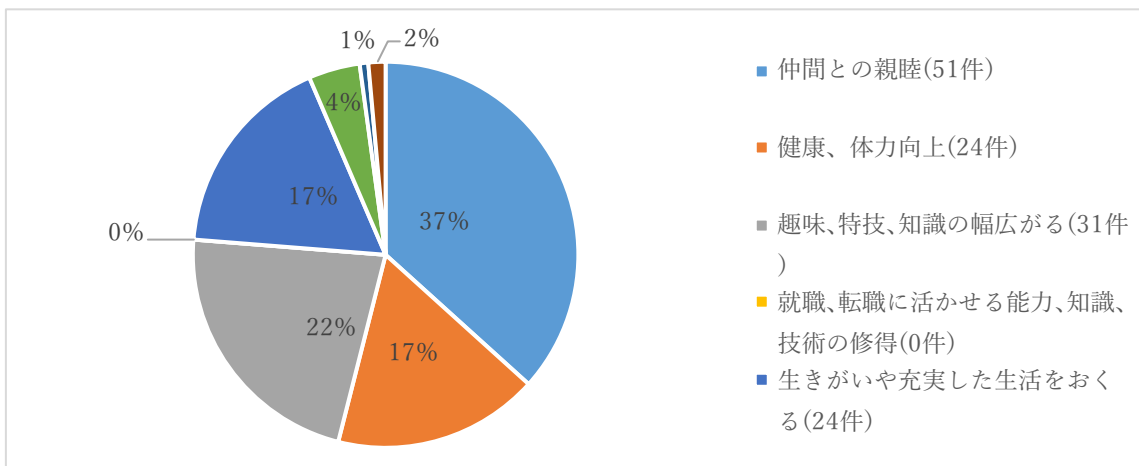
(その他意見) 市民文化祭、県や市の主催事業

(発表機会ない又は少ない 意見) ・老人ホーム等福祉施設で発表会を考えたい

・必要ない(自己鍛錬、ゲーム性強い、発表する活動ではない)

これまで何らかの形で日頃の成果を発表する機会があったが、昨今コロナの影響により発表の機会を奪れていることも課題である。

問14 活動によって得られた成果



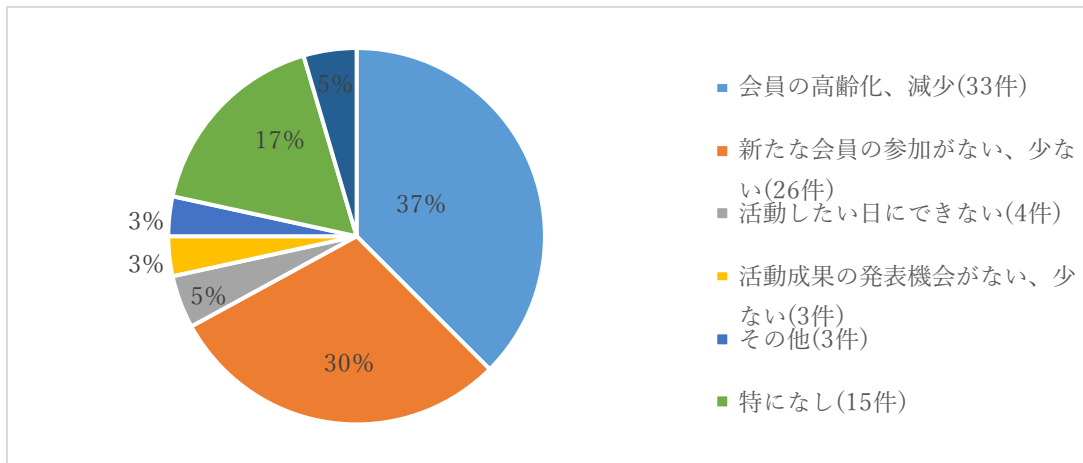
(その他) ・決めたいことを決めれる場所ができた ・会議使用のため会場提供に感謝

・1990年以降ボランティアを途切れることなく2020年、21年は1回だができて嬉しい

・湘南地域、県内支部の協議会で交流 ・地域の青少年活動に貢献

活動を通して仲間、健康、趣味、生きがい等その成果は多岐の範囲にわたっていることから、公民館での活動の公益性が認められる。

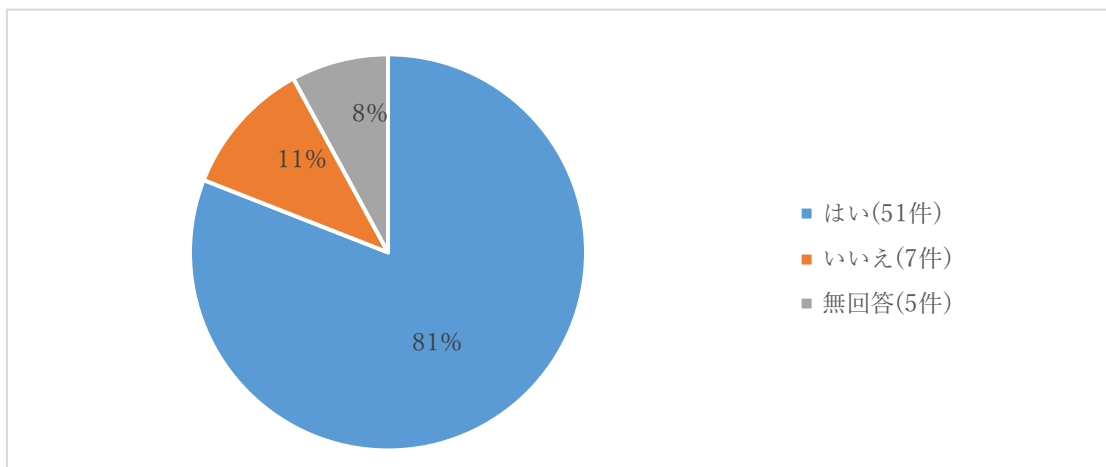
問15 団体・サークルで抱えている課題



(その他意見) ・月3回コロナ禍でも公民館で歌うことは心身の健康を良好にする
 ・指導者の高齢化問題 ・機材を置く場所に困っている

高齢化とともに新規加入者も少ない 深刻な状況が続いている。

問16 利用者懇談会加入の有無



(いいえの意見) ・高齢者多く、月1回の活動で目一杯 ・発足したばかりで様子見ている
 ・手間がかかる ・優遇措置があったら開示してほしい、明確にすべき
 ・事情で継続できるか分からないので様子を見てるが、安定すれば加入する
 ・都合のよい時間が難しい

利用者懇談会は公民館の活性化にとって必要不可欠な団体であることから、引き続き加入を促進を図っていく必要がある。

問17 団体・サークル活動に関して公民館に期待すること、望むこと等

- ・利用できるだけありがたい。
- ・利用調整より機械抽選の方がよい。(他同意見1件)
- ・休館日を少なくしてほしい(特に選挙期間)。
- ・選挙の投票会場を他の会場に変えてほしい。
- ・「大人のサークル体験」は、健康によく誰でもできることなので地域の人は初めてほしい。
- ・団体、サークルがお互い仲間意識を持って、幅広い合同活動ができることを望む。
- ・ピアノの調律をまめにしてほしい。
- ・ピアノのある部屋がもう一つあると、他団体とぶつかることがなくなる。
- ・世話人の会議が多すぎる。
- ・公民館らしい事業の一つが夏休み自由広場、来年行えたらよいと思う。
- ・地域のコミュニケーションの場であるおまつりも大切。
- ・若い母親たちが集える場がたくさんあると公民館も活気づくのでは。
- ・年1回、「公民館とは」をみんなで考えを確認することが必要。
- ・みんなが楽しく集まる場所になっている。
- ・集会室利用の際、椅子のために他の部屋をとるのが厳しいし、10時間枠に入ることも何とかしてほしい。
- ・各サークルは、仮予約後利用しない場合は早急にキャンセルしてほしい。
- ・事務局は、利用決定書の交付を受けていないサークルに確認の連絡をしてほしい。
- ・サークルが増えなくてもよいと思う。講義室の利用がみなほどよく平等であればよいと思う。
- ・端末で当日の空き情報が見られるようにしてほしい。

○物品の館内保管について

- ・サークル以外の利用者に希望物品の使用を認める、物品の破損等について公民館は一切責任を負いませんとは、公民館で一方的に認めておきながら、あとは知らないとは。仮に破損弁償になりお互いに解決できない場合は、公民館に仲裁に入るべきである。
- ・一部の公民館だけの運用規定なのか、教育委員会としては他人の物品の使用についてどう見解するのか問合せする必要がある。ぎくしゃくすること確実、一考を要す、
- ・サークルとして反対。

茅ヶ崎市立香川公民館運営審議会委員名簿

当初委員任期：2021年4月1日～2023年3月31日

	氏名	所属団体の名称等	委員の区分	備考
1	澤崎 實子	香川小学校区青少年育成推進協議会	社会教育の関係者 (公共的団体の代表)	再任
2	中村 洋美	鶴が台学区青少年育成推進協議会	社会教育の関係者 (公共的団体の代表)	新任
3	真鍋 花代子	湘北地区自治会連合会	社会教育の関係者 (公共的団体の代表)	新任
4	松尾 守人	湘北地区社会福祉協議会	社会教育の関係者 (公共的団体の代表)	(会長) 新任
5	佐藤 節子	香川公民館利用者懇談会	社会教育の関係者 (利用者団体の代表)	(副会長) 新任
6	豊嶋 常和	茅ヶ崎市私立幼稚園協会	家庭教育の向上に資する 活動を行う者	新任
7	都 浩一	茅ヶ崎市小学校長会 ※香川小学校教頭	学校教育の関係者	新任

公民館利用サークルの活性化にむけた公民館の果たすべき役割について

(答申)

令和5年3月

発行 茅ヶ崎市立香川公民館運営審議会

編集 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部社会教育課香川公民館

〒253-0082

神奈川県茅ヶ崎市香川一丁目十一番一号

電話：0467-54-1681

E-mail：kou_kagawa@city.chigasaki.kanagawa.jp